

講演 1

「コロナ禍における福岡市青果市場の動向」

福岡大同青果株式会社

専務取締役 手 嶋 雄 二 氏

今、ご紹介をいただきました、福岡大同青果の手嶋です。私からは、今回のテーマであり、コロナ禍による流通の影響を、多様な流通チャネルの中でも、青果物においては主力であり、流通の出発点に近い市場から、青果物に関しまして報告をさせていただきます。

皆さんご承知かと思えますけれども、青果の市場流通は、青果物の産地から市場に野菜や果物が集まり、私ども卸、そして仲卸や買参人を介しまして、スーパー等の小売店や加工工場、または飲食店に納入され、皆さま方消費者に届くといったような流れにあります。

まずは青果物のスタートであり、私ども市場から見ました場合には川上でもあります、生産地の私どもへの入荷の状況であります。ここにありますように、国産青果物は総じてコロナの影響は、幸い産地が郊外、もしくは地方が中心といったこともあり、大きな影響は見られません。ただもって、春先からの天候不順による、野菜、果物ともに生育不良から、ずっと今、市場の入荷量は減少しているような状況であります。

また、輸入青果物の野菜は、外食、中食における需要減もあります。国産の不足を一部では補うといったような動きから、入荷は増加いたしました。また、輸入果実におきましては、コロナの影響での巣ごもりでの内食需要増で、増加推移であります。こういったことで、市場全体といたしましては、コロナによる大きな影響はないものの、大変厳しい生育状況から、平年を下回る入荷量なっているところです。

一方、市場から出ていく、私どもから見た場合の川下の状況は、市場から多方面へ、多様な需要に向けて流れていくわけです。まず、内食需要を担うスーパー等小売りに向けては、巣ごもり消費による需要増が伺えます。また、中食需要を担います業務加工向けは、製品、商品の家庭消費増から加工需要増が見られております。また、外食需要を担います飲食店向けは、外出自粛や営業自粛で需要が減少しているように伺えます。

次に、今、申し上げました、私どもから見た川上、川下の状況を、私ども市場の取り扱い実績をもとに確認していきたいと思えます。

まず最初に、仲卸の取り扱い前年対比です。私ども福岡の青果市場には、仲卸が35社ありまして、それぞれに多方面へ青果物の卸を行っているところです。ここに仕向け先が比較的特化いたしました仲卸5社の本年の4月から7月の取り扱い前年比を示しております。

ここにありますように、仲卸Aおよび仲卸Bは、量販店中心の納入であります。巣ごもり需要で、数量、金額ともに前年を上回っている状況であります。

次に仲卸Cにつきましては、業務加工中心の納入であります。中食需要の増で、これも前年を大きく上回る状況であります。

それから仲卸Dもしくは仲卸Eにつきましては、ホテル、飲食店中心の納入でありまして、外食自粛で前年を下回った実績というようなどころであります。仲卸全体では、私ども福岡の市場につきましては、市場流通が小売り向けウ

エートが高いということもありまして、全体といたしましては巣ごもり需要から前年を上回る取り扱いになっているところです。

ページの3、4につきましては野菜、ページ5につきましては果実の、過去3カ年の4月から7月の平均値と本年の比較を、特徴的な品目と、国産および輸入別、それぞれの総合計を表示し、その右端にはそれぞれの取扱数量および単価の今年の平均値との違いの原因を、私なりに推察したところを載せております。

ページ3でありますけれども、ここにあります品目別、エノキ、シメジ、小松菜、白ネギ、キュウリ、これらにつきましては、施設野菜もしくは比較的本年が順調な生育であったことで、順調な入荷があり、また、家庭内消費ということでの巣ごもり需要で、数量、単価ともに平年値を上回った実績が残っております。

それから、ピーマン、トマト、キャベツ、レタス、ダイコン、こうしたものにつきましては、先ほど申し上げましたように、今年为天候不順からの生育不良というようなことで入荷が減している。

ただもって、当然ながらやはりコロナの関係、巣ごもり需要がありまして、単価につきましては平均値を大きく上回っている状況です。

また白菜につきましては、学長からもお話がございましたように、巣ごもり需要からの家庭消費も増しております。ある面、私どもにおきましては、キムチの加工需要があり、免疫力アップとかそういったことで、巣ごもり需要の高まりから、数量、単価ともに平年値を上回った実績が残っております。

一方、タマネギにつきましては、平均値よりも数量が少ないわけがございますけれども、これにつきましては、やはり天候不良の中から、非常に今年は佐賀産等のタマネギの品質が悪かったということで、圃場で廃棄した背景もございました中で、入荷が減少しております。入荷が減少したにもかかわらず、これにつきまし

ては中食、外食の需要部分が高い品目でありませぬ関係で、単価につきましても、平均値よりも安いというような結果が残っております。

それから、「その他妻物類」ということで載せておりますけれども、これは刺し身のツマ等に、脇に乗っておりますベニタデとか木の芽とか菊花、こういったものですね、まさしくツマ物野菜でありますけれども、これは外食需要の減から、ここにありますように、大変厳しい入荷単価となっているところでございます。

以上、国産の野菜は天候不順からの生育不良で入荷減、一部の輸入品目では、この不足を補う動きもありましたけれども、野菜全体では、国内が非常に作柄が悪いということで、結果的には全体といたしましては入荷が少ない。巣ごもり需要の高まりから、テレビ、新聞等で報じられておりますけれども、非常に今年の野菜は価格が高いといったような状況になっているところであります。

5ページにつきましては、同じように果実を載せております。ここにありますように、バナナ、キウイにつきましては、まさしく巣ごもり需要で売れるというようなことで、コロナ関係で一部分、輸入の船とか船コンテナあたりの乱れがありまして、部分的には国内に入ってくる量が少ない時期もありましたけれども、この4月から7月のスパンの中では、需要が高い、売れるということで、輸入業者さん等も非常に積極的な動きをしたということで、まさしく入荷も単価も平年値を上回った状況であります。

それから、オレンジも同様でございます。ただもって、巣ごもり需要で非常に売れるということで、積極的な輸入をしております関係で、こういう数値であります。ただやはり、思い切って輸入商社関係が積極的な販売促進策を打ったということで、価格につきましては平年値、それから通常、入ってこないような地域からも積極的に入れたということもございます。そういったことで、非常に需要の高まりはあつ

たんですけれども、結果的には単価は平年値を若干下回ったというかたちであります。

リンゴにつきましては、非常に今年は作柄が悪く、残量が非常に少ないということで、大きく入荷が減しております。需要は、巣ごもり需要で非常に高いということで、とんでもないような単価高で今年は推移したという状況であります。

続きまして、国産のマンゴーや静岡のメロン。まさしく私どもの言葉で言いました場合の高級果実です。これにつきましては、ホテル等の高級果実の需要が減少したことで、必然的に入荷は引き合いが薄いものですから、入荷は減りました。

マンゴーにつきましては、高級果実としての需要は薄かったんですけれども、今年は値段がたぶん安いよということで、スーパー等でも売っていただいた。まさしくこれにつきましては、巣ごもり需要の中から産地も覚悟していたんですけれども、なんとかかんとか価格を持ちこたえたという状況であります。ただ静岡メロンにいたっては、巣ごもり消費の対象とならず、残念ながら単価安となりました。輸入のレモンにつきましては、非常に外食での扱いが多い果物でありまして、まさしく需要減で、入荷、単価ともに平年値を大きく下回った状況となっております。

以上のように、国産果実は作柄不良から入荷

が減、巣ごもり需要で単価は高くなっております。輸入の果実はということになりましたら、このように国産が不足しております関係、それからまた、巣ごもり需要が非常に高まるというようなことで、入荷増となっております。ただ単価は、先ほど申しましたように、積極的に、例年以上にいろいろな地域から物を入れ込んだということもありまして、結果的には若干価格が下回っておりますけれども、これは需要が低かったという内容ではございませんので、ご理解いただきたいと思っております。果実総合では、国産の作柄不良が響き、入荷は減少しています。巣ごもり需要から単価高で推移いたしました。福岡市場の動向は、以上でございます。

現在、このコロナ禍におきまして市場における対応といたしましては、私どもは絶対に青果物の流通を止めてはならないという思いで使命感を持って感染予防策を講じつつ、業務にあたっているところです。

最後にですけれども、食料自給率および食料安全保障の観点、または健康増進の点からも、青果物の消費拡大が進み、需要が増大し、それが特に国内での生産維持・拡大につながっていきますように、本日ご参加の皆さま方に、ぜひともお力添えをお願いし、私からの報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

(終了)

青果市場からの報告

コロナ禍における福岡市青果市場の動向

発表者： 福岡大同青果株式会社
専務取締役 手嶋雄二

2. 川下需要事情

- 内食（小売向け） ⇒ 菓籠もり消費による需要増
- 中食（業務加工向け） ⇒ キムチ・冷凍食品等の家庭消費増で加工需要増。
*一部、惣菜については減少。
- 外食（飲食店向け） ⇒ 外出自粛・営業自粛により需要減。
*給食：学校・社会は休校やテレワーク等で需要減。
病院・介護施設の需要は変わらず。

1.7年からの3ヶ年分の（4月～7月）累計平均値と本年値の比較（単位：2）

品名	数量	単価	円/kg	数量	単価	円/kg	注
トマト	数量 3,814	94.5%	4,128	4,147	3,833	4,036	作柄不良へ入荷減。
キャベツ	数量 10,857	93.7%	11,189	11,254	12,287	11,809	作柄不良へ入荷減。
白菜	数量 12,703	104.3%	12,176	12,382	11,982	12,180	キムチ加工需要増で入荷増。
レタス	数量 4,295	93.1%	4,652	4,422	4,573	4,482	作柄不良へ入荷減。
大根	数量 4,626	94.3%	4,820	4,859	5,034	4,904	作柄不良へ入荷減。
玉葱	数量 4,464	71.1%	9,617	8,432	10,026	10,802	消費意欲の減、入荷減。
その他野菜類	数量 46	61.1%	74	75	77	75	引合い弱く、入荷減。
国産野菜	数量 1,660	90.8%	1,869	1,828	1,791	1,829	外食需要減。
輸入野菜	数量 71,189	93.7%	74,110	72,856	80,958	76,067	他社へ作柄不良で入荷減。
輸入野菜	数量 293	117.3%	332	339	373	373	内食向け中心・惣菜もり消費増。
輸入果実	数量 4,900	111.4%	5,041	5,065	2,193	4,400	中食需要減及び外食需要減少の一方、
野菜類合計	数量 143	101.4%	144	129	150	141	国産不足補い・入荷者（消費増減あり）。
野菜類合計	数量 78,088	93.1%	79,351	78,650	83,151	80,451	内食向けの引合いが従来より強固により
	数量 199	116.4%	170	171	172	171	需要減もあるが、作柄的に不足の補いに入荷減。

1. 川上入荷事情

- 国産青果物 ⇒ 野菜・果実共に給じて、コロナ禍の影響は見られないが、春先の低温及び長雨・日照不足による生育不良で数量減少。
- 輸入青果物 ⇒ 輸入野菜は外食・中食の需要減の一方、国産の不足から一部品目で増加。
輸入果実は内食需要増から数量増加。

福岡市青果市場仲卸の取引・出荷対比（本年4月～7月累計）

仲卸区分	数量前年比	単価前年比	金額前年比	取扱仲卸の主な取引先
仲卸A	105%	111%	121%	地場産品販売（内食） 菓籠もり消費
仲卸B	118%	111%	133%	広域産品販売（内食） 菓籠もり消費
仲卸C	111%	113%	125%	業務加工業者（中食） 菓籠もり消費
仲卸D	95%	95%	93%	地場産品・レストラン（外食） 露店
仲卸E	74%	106%	74%	地場産品販売（露店販売）（外食） 露店
仲卸合計	103%	111%	115%	

1.7年からの3ヶ年分の（4月～7月）累計平均値と本年値の比較（単位：1）

品名	数量	単価	円/kg	数量	単価	円/kg	注
人参	数量 737	104.6%	682	704	727	704	施設栽培へ入荷増減。
しめじ	数量 293	148.7%	245	176	174	197	菓籠もり消費。
小松菜	数量 566	116.0%	505	468	492	488	施設栽培へ入荷増減。
白葱	数量 766	109.2%	730	671	683	701	作柄良好へ入荷増。
絹豆腐	数量 3,530	102.8%	3,424	3,481	3,399	3,435	引合い弱く入荷減。
ピーマン	数量 1,041	97.7%	1,101	1,029	1,084	1,071	作柄良好へ入荷減。
	数量 468	157.0%	323	288	272	298	菓籠もり消費。

1.7年からの3ヶ年分の（4月～7月）累計平均値と本年値の比較（単位：1）

品名	数量	単価	円/kg	数量	単価	円/kg	注
バナナ	数量 4,232	110.2%	5,425	5,031	5,402	5,653	消費増から入荷増。
キウイ	数量 956	111.6%	876	781	895	821	消費増から入荷増。
オレンジ	数量 1,242	140.4%	885	923	845	884	消費増から入荷増。
リンゴ	数量 1,896	90.9%	2,113	1,865	2,339	2,026	内食向けによる入荷減。
国産リンゴ	数量 31	93.0%	38	32	30	33	高級果実の需要増で入荷増。
メロン（静岡）	数量 29	65.4%	45	52	47	48	中食向け等高級果実需要増で入荷増。
レモン	数量 387	73.7%	476	458	542	492	上記の需要減の補償で入荷減。
国産果実	数量 8,991	83.5%	9,932	10,310	10,416	10,159	内食向けによる入荷減。
輸入果実	数量 11,352	106.6%	10,372	11,001	10,744	10,706	内食向けに需要減及び消費不足から入荷増
果実類合計	数量 20,343	97.5%	20,305	21,312	21,161	20,865	内食向け中心の需要減で消費増は補償されず。
	数量 352	105.4%	341	340	321	334	消費増もあるが、国産作柄不良で入荷減少。